

板倉町の重要文化的景観選定および保存対象範囲

この6地区は板倉町の治水の歴史や構造を今に伝え、現在の板倉町の「水場」を象徴しています。また、地区内には施設・建造物・自然体系などの水場景観を構成する要素が点在し、それらすべてが文化的景観となります。

渡良瀬川地区

町の最北地域を流れる渡良瀬川。現在は渡良瀬遊水地を経て利根川に合流します。かつては鮭漁などが盛んでしたが、足尾鉍毒事件以降、漁業は行われなくなりました。また、渡船場も存在し、地元の交通路として重要な役割を果たしていました。

板倉町イメージキャラクター
いたくらん



渡良瀬遊水地地区

足尾銅山鉍毒事件を契機として、大正時代から建設事業が開始された人口調整池。群馬県・栃木県・埼玉県・茨城県に跨っています。国内最大級のヨシ原があり、3月にはヨシ焼きが行われています。板倉町の治水に重要な排水機場が接続されています。

雷電神社周辺地区

昭和50年代初めまでは板倉沼、亥之子沼、御手洗沼が存在し、半島状態に位置していました。雷電神社本社は群馬県の指定重要文化財、末社は国の指定重要文化財、社叢林は群馬県緑地環境保全地域に指定されています。

谷田川地区

利根川水系の1つである谷田川は板倉町の中央を東西に流れる水場景観の最重要河川です。河川敷には植物群落が形成されており、多くの動植物が生息しています。今も貴重な「柳山」「川田」「沈下橋」があり、堤の内外には多く池沼がみられます。

利根川地区

町の最南を流れる利根川の河道は、近世初期から近代に至り継続的に治水回収事業により形成されてきました。かつては板倉と江戸の水運流通の重要なルートでした。

古利根地区

古来からの国境で今も県境となっている河川跡。現在は、水路や堤などが残存し、河川景観を継承しています。堤外地には水田風景が広がっています。